経済学入門　講義ノート

第 12 回 取引と貿易　　（どうして人々は取引をしたり、貿易を行うのか）

本講義目的

- 人々はなぜ取引や貿易を行うのか、また、経済学はなぜ自由貿易を奨励するのか、といった事項について学ぶ。

１．取引による利益（経済的相互依存のもたらす便益）

１）取引による利益

人々が、異なった財を持っているか、または異なった欲望を持っているか、またはその両方を持っているならば、取引を行うすべての人に便益をもたらすような取引の機会が存在する。

例　　A 氏　　イチゴ 2 パック
　　B 氏　　メロン 2 個

取引を行うことによって、A 氏も B 氏もイチゴ 1 パックとメロン 1 個をそれぞれ楽しむことが出来るようになる。（両氏が、イチゴ 1 パックとメロン 1 個を同程度に望ましいと考えるならば。）

自発的に取引を行う場合、取引に参加した人は、取引を通じてより望ましい状態に到達できる。

２）取引にまつわる複雑な側面

- 情報の問題　　例　中古自動車の購入
- リスクの問題　　例　ベンチャーキャピタルへの出資
- 期待形成の問題　　例　ピクニックテーブル
- 取引費用　　例　不動産販売

インターネットでの取引　楽天市場
（取引費用の低下が可能である、一方、情報やリスクは非対称的である。）

２．国際貿易

１）概況

生産物市場　　日本の歴史

輸入　外国で生産され、自国に輸入　　食料⇒衣料品⇒テレビ

輸出　自国で生産され、外国へ輸出　　衣料品⇒鉄⇒車⇒ハイテク商品

労働市場

短期雇用　　単純労働者

長期雇用　　技術者・科学者（アメリカ）

資本市場

投資の機会を求めて海外へ資本が移動する。

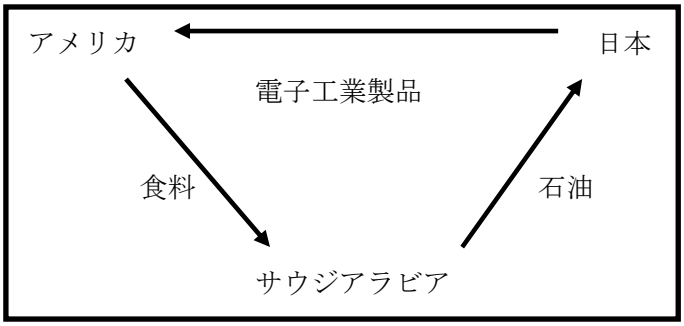
近年のアジアの経済成長、現在のアメリカの経済成長

２）貿易の種類

2 国間貿易

アメリカと日本の間など、2 カ国間で財の取引を行うこと。

多角的貿易



ある国と別の国との輸出入が均衡すべきであるとの主張には（経済学上からは）何の根拠もない。

３）比較優位

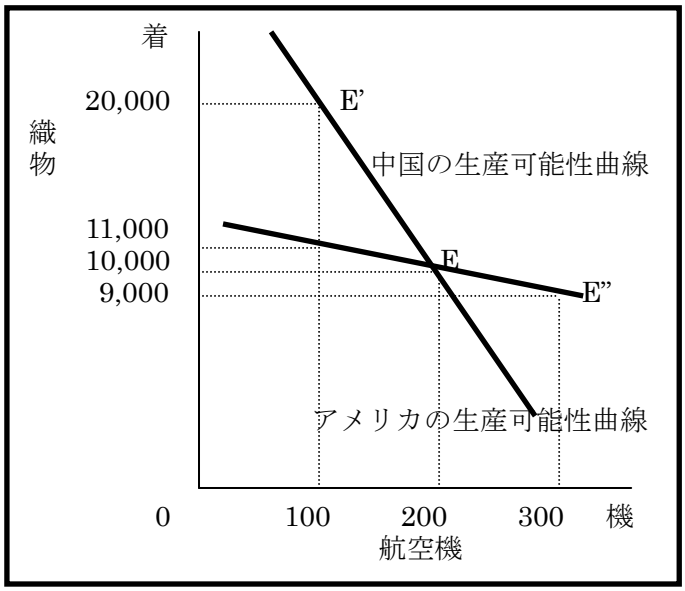
絶対優位と比較優位

	アメリカ	日本
コンピューター1 台の生産に必要な労働費用	１００	１２０
小麦 1 トンの生産に必要な労働費用	5	8

アメリカは、日本に比べて、コンピューターの生産、小麦の生産、双方に絶対優位をもっている。

アメリカは、コンピューター1 台を生産するために、小麦の生産２０トンをあきらめなければならないが（１００÷５＝２０）、日本は、コンピューター1 台を生産するために、小麦の生産 15 トンあきらめるだけでよい。（例えコンピューター生産の労働費用がアメリカよりも高いとしても、日本は小麦の生産はアメリカに任せて、コンピューターの生産に特化したほうが良い。）
日本は、コンピューターの生産において、アメリカに比べて絶対劣位であるが、比較優位となっている。

比較優位の説明



中国とアメリカが点 E にて、航空機 200 機と織物 10,000 着を生産している。
同じ資源を用いて、中国は航空機 100 機と織物 20,000 着を生産できる（点 E'）。
同じ資源を用いて、アメリカは航空機 300 機と織物 9,000 着を生産出来る（点 E"）。
中国とアメリカで分業を行うことにより、両国の間で利用可能な航空機の数は 400 機と変化しないが、織物の数は 20,000 着から 29,000 着へ 9,000 着の増加となる。

生産特化をする理由

- 分業の推進による生産効率の向上
- 経験を積みシステムを構築することによる生産性の向上
- 発明を産み出す機会の創出

比較優位を決定する要因

天然資源の存在量　　ポルトガルのワインとイギリスの毛織物
取得した資源の存在量　　日本

科学・技術知識	歴史的偶然（スイスの時計）、慎重な政策（日本）
専門化	高級車と大衆車の生産

３．取引における費用（経済的相互依存のもたらす問題）

１）国内問題（Winner と Loser）

地域間格差	特定地域の保護（得する地域と損する地域）
産業保護	特定産業の保護（得する産業と損する産業）

２）国際問題（Winner と Loser）

保護主義	得する人と損する人（農業　日本の米、　アメリカの砂糖）
産業政策	損する産業と得する産業（NTT の通話料の低下）
	戦略的産業政策（バイオ、インターネット）
優秀な人材の国外移転	ザンビアの医師（British Common Wealth）

移民受け入れ問題（不法滞在者　日本の犯罪、医療サービス）